

フロアからの質問

No	どの登壇者への質問か	質問内容	回答
1	関西大学 川瀬	A学部における担任者へのフィードバックですが、そのフィードバック結果を他学部や他の授業でも採用し、将来、どの教部署が行っているかは分かりませんが、教員業績評価に活用されるといった展望はあるのでしょうか？	【関西大学】その予定はございません。あくまでも学生自身のメタ認知を刺激することを目的として開発・運用します。
2	関西大学 川瀬	大学・学部の「満足度」を定義している具体的な質問(項目)を教えてください。	【関西大学】申し訳ありませんが、質問紙は非公開となっておりますのでご容赦ください。
3	関西大学 川瀬	学生個人へのフィードバックはとて素晴らしいことだと思います。その中で「ワンポイントアドバイス」は、システムやコメントをどのように構築されているのでしょうか？	【関西大学】「ワンポイントアドバイス」は教養教育や準正課プログラム、正課外プログラムなどの部局横断型教育プログラムに関連するもの(これは全学部共通)と、学士課程ごとの専門教育に関連するものを合わせて設定します。学士課程ごとは、教学IRメンバーが部局担当者と議論を重ねながら決定します。本学は13学部ですので、将来的には13パターン作成予定です。
4	関西大学 川瀬	「学内資格」とは(全く)縁のない(ような)学生に対する対策・フォローについてはどのように考えていますか？(資格をとらないことが悪いこと、のようにならないための対策等々)	【関西大学】今現在は対策を取っておりません。課題として検討いたします。
5	お二人	プログラムレビュー(学部学科レベルの教育プログラム評価)のためのIR情報の提供は、毎年定期的に行っておられますか？(こちらであれば、何月に実施しておられますか？)それとも、学部や学科から要望があった時だけ不定期に情報提供されておられますか？(こちらであれば、各学部学科を巻き込むためにどのような工夫をいらっしゃいますか？)	【明治大学】プログラムレビューは、毎年3月に自己点検・評価全学委員会が各部門に依頼します。プログラムレビューのシートに、予め検証に必要なデータ、グラフを挿入して各部門に依頼しますので、依頼時までIRオフィスから同委員会に情報提供します。また、随時、学部等からの分析リクエストに対応したレポートを行っています。後者の分析リクエストに基づくレポートがIRの主要業務であり、自己点検・評価の支援はそのうちの一つです。学部等にエビデンスに基づく教学運営に関心を寄せてもらうために「データカタログ(データ分析のサンプル集)」を毎年度発行し、各種会議で報告しています。 【関西大学】本学では、毎年の自己点検用に「内部質保証チェックシート」を開発しました。それを年始に部長は提出し、入試時期にそれをもとに学長面談が行われています。
6	関西大学 川瀬	p25のフィードバックは学生の自己評価でしょうか。	【関西大学】質問紙調査の結果を反映しています。本学では、コンピテンシー等の外部テストの予定はございません。あくまでも学生自身が自らの学びをどのように評価するか、を中心にアセスメントプランを立てています。
7	関西大学 川瀬	つまづく科目をどのようにして見つけ出されたのですか？	【関西大学】統計専門のIR担当教員が決定木分析によって洗い出しました。決定木分析は、不安定な分析手法ですので、あくまでもディスカッションの基盤として位置づけています。 (ご参考)『関西大学高等教育研究』(第8号)論文「教学IRでの決定木分析の活用ー初年次の学修成果に影響する入学時の学生特徴の探索を例としてー」 http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/activity/pdf/kiyo_no.8_pdf/kiyo_no.8_07.pdf
8	明治大学 山本氏	図を作るときに特に気をつけていることはありますか？	【明治大学】特に大切に思うことは、2点です。1点目は分析前段階で、「データ全体をみる」ことです。データがあると、すぐさま平均値を算出し、学部別比較等をしたくなりますが、散布図で異常値がないか、データ処理ミスがないかを確認したり、箱ひげ図やヒストグラムから分布特性を確認してから、レポートに適切な図を選択するようにしています。2点目は分析時に、「データを俯瞰すること」です。学習成果において「プレゼン力が上がった」という結果があったとして、もし学習時間が「ゼロ」の学生ばかりであったら、レポートの内容も変わります。データは客観的ですが、必要な事実を提供していない場合もあります。図でレポートするときには、データを俯瞰し、何が事実なのかを探索することを大切にしています。